琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件　沖縄関係

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-01-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43235

外務省北米局長

北米局長

総理訪沖

政経情報

政経情報 その3 40 7参。事 [illegible]

北米課長

1 首相来沖に対する一般的ムード

5月19日の佐藤首相来沖を前に、現地では日米琉三者が協力してそれぞれ受入れ体制をととのえている。せっかく沖縄まで来てもらうからには、その行動がスムースに行くよう万全を期する構えでとりくまれている。

しかしながら、その反面、佐藤首相一行の来沖について、「日の丸の旗で歓迎するばかりでは住民の気持は通じない。何らかの形で戦後20年異民族支配下におかれている不平不満を吐露しなければならない。」とする一種のあせりとも いらだちともいえる気分がウツボツとしていることはかくれない事実のようだ。

佐藤首相自ら沖縄へ来るには、それ相当の意義と目的とをもっているからだろう。とする反面、諸般の情勢から、来沖を機として現在の沖縄の地位が急転直下好転するとは進しも考えていない。

総理府

2

せいぜい援助増加が期待できるくらいなものだろうが、それとて、いよいよ現状固定化につながる偽装ではないかとの警戒ムードが強く流れている。

とくに知識階級は佐藤首相が首相になる直前、沖縄問題について池田実勢の弱腰を批判し、「自分ならもっと積極的に取組む」旨の発言をしており、それが首相就任と同時に何ら進展を見せていないことを熟知している。

残念ながら、今のところ、現地新聞紙の論調はいずれも歓迎にやぶさかではないとしつつも、復帰のスケジュール明確化がなされなければ何の役にもたたないとの調子に終始しており、相当に手きびしい感じである。

先に来沖した [redacted] 某相は まったく自主性のない行動をとり、来側のおぜん立てどおり行動し、一般住民との

総理府

接触をもたず、飛行場から基地へ、基地から飛行場へとトンボ返りをしたのに対しては きわめて悪い前例を作ったと 今でも非難が絶えない。

今回は、この点、目立的なスケジュールが組まれており、一般住民との接触も相当に予定されているので、その点では好感がもたれる。

2 治安、警備

以上のべたような一般のムードを背景に、（今下組合49、組合員数約27,000）柴労協は方々に次のような方針を定めている。

(1) 1911 抗議、請願柴民大会を開き、宿舎までデモを行なう。（集会会場は 那覇高校、デモコースは 松尾一 国際通 — 安里 — 泊 — 平急ホテル が予定されている。）

(2) 民主国体との会見の機会が与えられれば、そこで抗議文を首相に手渡す。しかし、これが認められなければ宿舎にデモをかけて抗議文を手渡す。

(3) 空港へも阻止国体が結果する（可能性がある。）

（もっとも 出方が注目される復帰協は 最終的な態度をまだきめていない。 柴労協は復帰協に加盟していないが、今下学組のいくつかが ~~[illegible]~~ 復帰協に加盟している。復帰協の中心をなす教職員会は 請願を基本態度とする方針（沿道に小中学生を動員して日の丸で歓迎させることを認めており）を打出しており わりあいに穏便である。）

最終的な決定は本土出張中の屋良教職員会長の帰急後となろう。

（参考） 過去の民主勢力動員数

○ S 39. 10. 29 指名議会阻止（主催復帰協）
約2,000

○ S 〃 〃 31 〃 （ 〃 ）
約2,000

○ S 40. 4. 28 復帰デー 柴民大会 （ 〃 ）
約10,000
（今回では約15,000）

○ S 40. 5. 1 May day （柴労協）
約5000
デモ参加 3220
（今回では7,000 デモ5000）

○ 3 40. 7. 24 宮古製糖合併反対 約 3000

（警官動員数） 報道では最高 800～850 が限度
（合流宝員 約 1500）
宮古、八重山では宝員 52と54 応援 50を
入れて最高 80

§ 警察庁 千葉警察、警察庁 安斉警部の指摘点
○ 警衛 警察に不馴れなため 突発事業に対して臨機応
変の措置がとれるよう教養の必要があり、実際面でのこ
まかな指示を徹底すること

○ 特殊病者を現場から隔離すること
○ 事前探索を十分に行なうこと

（宮古の製糖工場合併反対にかゝる事件は、伝統首相来沖
に対する感情とは次元を異にするが、警備実施、情勢分析
にやや甘さを感じさせたようである。）

極秘

政経情報（その4）

40.8.6

北米局長
参事官
北米課長

復帰協会長の談話等

復帰協第26回執行委員会は、1965年8月2日午後6時から那覇市美栄橋町沖縄教育会館で開催され、その状況については、琉球新報、沖縄タイムス紙に報道されたところであるが、当事者の意向を正確に知る見地から1965年8月5日午後4時30分頃沖縄教育会館を訪れ、復帰協会長喜屋武真栄に面会し、同執行委員会の決定事項をきいた処、次のとおりであった。

記

1. 執行委員会の決定事項

(1) 空港に於ける請願行動

佐藤首相が来島する8月19日には空港に赴き請願行動を行うことを決定している。その方法については、次の執行委員会で決定するものと思うが、

来沖時刻が午前中になるので幹部だけの動員になる可能性が強い。請願方法は、空港デッキの手すりに「沖縄を早く抱きとって欲しい」と言う意味の文句を書いて、横断幕を取りつけ、首相の目につくような請願行動をとりたいと思っている。しかし当日は混雑もするし、中に入れるかどうか。

(2) 県民大会及びデモ行進について

県民大会は、8月19日晩、行うが、これには最大

動員を行う。場所も他の場所では収容できないので、那覇高校とし、デモコースは那覇高校～松尾三叉路～国際大通り～安里～泊高橋～1号線～東急ホテルとすることを決定した。デモは請願デモで日の丸は持たずプラカードを掲げ秩序と統制あるデモを行い度い。

（沿道などで、混乱状態が起きないかの質問に対し）

デモは、各加盟団体の責任者に、その団体の行動を責任もって統制して貰うよう言っており、問題が生じればその団体組織の責任であることを強く申し入れてある。

(3) 人民党、沖労連グループの動向について

（人民党は、佐藤首相の来島を反対し阻止の動きがあるがとの質問に対し）

第26回執行委員会に全沖労連の新城均造（委員長）が出席し、10項目位、種々のことを書いてあったので、私から復帰協は請願行動をするのであって抗議行動はしないが、貴方達はどうするかと聞いたら、最終的には復帰協の決定に従うと言っており、その譲もとってある。そのほか事前の宣伝活動方法をきいたら「ビラを各地に配り佐藤首相の訪沖を知らせる」と言うことであったので、それはよかろうと答えてある。私は新城君に組織の決定に従って行動しないと問題が起こるし、問題が起ると困るぞと念を押してある。

(4) 教職員会の動向（日の丸歓迎の問題）

この問題では私も間にはさまれて困っている。つまり現場の学校あたりが生徒をして日の丸を掲げて歓迎させる動きがあり、復帰協としては日の丸を持たない行動を決めているので、復帰協に加盟している教職員会が日の丸を掲揚することは組織の決定に逆行することになる。

しかし、私は皆にはっきりいってある。子ども（学校）に日の丸を持つなとはいわないこと。子どもには子どもの安界があるのであるから、自然にさせる。片手でプラカードを掲げ、片手で日の丸を掲げても子どもらしい意思表示をさせればよい。もし、日の丸を持つなというと、いく前には荒木文部大臣を日の丸で歓迎させているのだから教育上筋が通らなくなる。だから、この問題は自然に子ども々にさせる方法にしている。

また、学校の責任は教育長や文教局にあるので横あいから、種々いうことはないと思う。

しかし、復帰協の場合はそうではない。日の丸で歓迎すれば現状に満足して歓迎しているという風に受取られる。やはり20年も祖国から離れている時に一国の最高の政治責任者が来られるのであるから「早く祖国に抱きとって欲しい。」という意思表示が先になされる

べきで、その意味で日の丸を持たないことにした。そして、プラカードで意思表示をすることにした。

(5) その他

イ（復帰協の今回の首相来島に対しては請願行動をとるのか抗議行動をとるのかの質問に対し）

これは首相来島の受けとり方と思う。20年も祖国から離れているのであるから「20年間何をしていたか」と

子ども（沖縄）としては真先に出てくる言葉である。その意思表示が当然出てくるが、これを「何をしていたか」と抗議に移す者もあろうし、請願を行なうことにもなる。復帰協としては請願行動をし、正々堂々と首相に復帰の意思表示をすることにしている。（これは、24.25.26の執行委員会で確認すみであると強調していた。）

ロ（アイク大統領訪沖時のような混乱事態発生が予想されないかの質問に対し）

そのようなことはないと考える。アイクの場合はいわばよそ者という感情があったが、佐藤首相の場合は

自分たちの国の政治最高責任者という気持があるので、あのときのような事態は起きないと考える。

八 (次の報告委員会は何日かの質問に対し)

昨日(8月4日)予定していたが台風で開けず今日はその後始末でできない。今準備中だが多分、8月7日または8日の午前中に行なう予定である。

現在 事務局長代行の排原用行君が陵業しており、官公労の平良清安君が代行しているが官公労が多忙で、なかなかスムースに復帰協事務がいかない状況である。

最後に、同会長は、「とにかく秩序と統制のある行動をして、つまらぬ問題を起こさないようにお互いに気をつけて行きます。」と語っていた。

臨時警察本部 準備課の情報

1 空港への出動人員数は多く見積っても300。19日夕方の集会には7,000～10,000の参加が予想される。(4.28集会のとき 集会に18000、デモに11,000が参加している。)

2 [redacted]

しかし、準備には責任をもってあたる。

身辺に危険を及ぼすような行動には絶対に出ないと思う。

3 学生orgは金沖労連の事務所に「在本土沖縄学生会統一帰省活動実行委員会」(美栄橋町1-31)をもって活動を始めている。(首相来訪阻止のビラくばりなど) メンバーは [redacted] れく外判明していない。その意図は空港での阻止行動にあると見られる。

北米局長
参事官
北米課長

総南連第２０８６号

昭和４０年８月１１日

総理府特別地域連絡局長　殿

那覇日本政府南方連絡事務所長

政　経　情　報（その５）

佐藤首相一行来沖に対する県民大会等について

1　佐藤首相一行に対する陳情ないし抗議

現在明らかに訪問反対を打出しているのは，人民党と同党の勢力の強い全沖労連，沖縄民青同などである。反対の理由とするところは，「訪問の目的が現状固定化と沖縄民主党へのテコ入れだからだ。」としている。

しかし，これらの団体もそれ自体では多数の動員が不可能なので復帰協主催の１９日の県民大会への参加を肯定しており，その傘下となつて行動するものと思われる。したがつて，１９日の県民大会とそれに続くデモが最大のヤマで，それ以外には空港到着時の気勢ぐらいしか警戒するものは予想されない。

2　佐藤総理訪沖に対する祖国復帰要求県民大会

県民大会のスケジュールは次のとおりである。

（８／７復帰協執行委員会での案）

佐藤総理訪沖に対する祖国復帰要求県民大会

日　程

1　司会　復帰協　　大城栄徳

開会あいさつ復帰協副会長　大田守昭

2　「沖縄をかえせ」大合唱指揮

大島　修

3　議長団選出　(1)　県労協

(2)　婦　連

(3)　教職員会

4　議長あいさつ

5　経過報告　　事務局長代行

6　会長あいさつ　復帰協会長　喜屋武　真　栄

7　意見発表（１０分）　(1)　沖縄社会大衆党

(2)　社会党沖縄県本部

(3)　沖縄人民党

(4)　市町村会

8　スローガン採択

9　決議文採択

総　理　府

10　閉会あいさつ　　復帰協副会長　大　田　守　昭

11　デモ行進　　那覇高校→松尾→国際大通り→安里→県庁前→東急ホテル

※ 統制委員長の任命

各団体の代表者が統制委員になる。

統制委員長は教職員会の福地曠昭研究部長があたる。

県民大会準備事項

1　日時　1965年8月19日（木）午后5時半

2　場所　那覇高校

3 (イ)　スローガン　横幕

(ロ)　決議文

4　会場準備

舞台，マイク，電灯，先導車

同大会でのスローガンは，次のとおり。

(1)　日本政府は，米国に対してただちに平和条約第3条を破キし沖縄返還を実現せよ。

(2)　日本政府は，主権平等と民族自決にもとる米国の沖縄支配を国連に提訴し沖縄返還を実現せよ。

(3)　日本政府は沖縄県に日本国憲法を適用し県民の参政権を復活させよ。

(4)　日本政府は県民の完全自治と知事公選をただちに実現させよ

(5)　日本政府は，沖縄県と本土の往来の自由をただちに実現させよ。

(6)　日本政府は，安保条約を破キしアメリカのベトナム戦争を中止させよ。

決議文は以上のスローガンの内容を盛り込む。この決議文を東急ホテルにデモつて行つて首相に手渡す。（注）（官房長官が受取る予定とのことであるが，それはきわめてよいことだと思われる。）

3　警備上の重点

(1)　空港へは約300名くらいが集結し，赤旗，プラカードなどで気勢を上げるものと思われる。これを排除してスムースに車両の通過をはかる必要があるが，当日空港周辺にはほぼ同数の警察官が警戒にあたる。

(2)　県民大会は，約1万人を集めて予想どおり進行すると思われるが，デモに移つた後，人民党系の500名くらいが若干ハネあがるかも知れない。デモのコースおよび東急ホテルの解散地点での警備が重視される。デモコースとホテル周辺には1大隊があたる。

解散をすみやかにさせるためにも，首相の代理者において抗議文を受取ることはぜひ必要だと思われる。デモは全般的に統制あるものとなると思われるので，人民党系もあまりハネ上る

と浮き上るおそれがあり，その点で過激な行動には出られないと思われる。

(3) 精神病者対策

具体的な施策は現在のところなされていない。

各署では事前に調査をとげ，粗暴性のある者についてはその期間保護留置するか，家族への監督強化を指示する予定。現在直訴や危害に及ぶような精神病者の心配はないと思われる。

(4) その他

名護，宮古，八重山については問題とすべきものはない。

帰省学生，琉大生の動きもビラはり程度のものしかない。

２０日，２１日にはいかなる集会，デモも予定されていない。

4 首相来沖に際して望まれること。

(1) よく勉強してきてもらいたい。

佐藤首相が沖縄へ来ても施政権返還が実現すると考えている者はほとんどいない。しかし，戦後２０年ぶりに首相が沖縄へ来られるようになつたことは，積み重ねられた漸進の後かなえられたことで，その点は本土との一体化として嬉しい。来てもらうからには，よく沖縄事情に精通してトンチンカンなことをいわないようにしてもらいたい。「沖縄では日本語の新聞がでているのか」（鈴木茂三郎）「平常も日本語で話してるの」（片山哲）「Ｕ２機など沖縄へもつてゆけばよい」（浅沼稲次郎）等の発言はしつこく記憶されており，佐藤首相についても同様のヤユがある。（浜西健次郎「沖縄への報告」１６２ページ）よく勉強して打てばひびく応答をしてもらいたい。

(2) 明確な反応を示してもらいたい。

沖縄での陳情等については，すみやかに検討の上，実現できるものには明確に反応を示して誠意を見せてもらいたい。大名の物見遊山であつた，という印象を与えることが今後もつとも大きなマイナスになろうと恐れる。

（追記） ８月１０日那覇に対して布令第１３２号「禁止される又は許可を必要とする示威行進及び集団行列並びに罰則」に基づく集会とデモの許可申請が復帰協からなされた。それによれば参加人員は５０００人の見込みとなつている。過去において，申請数を上まわつたことはなく，たいてい３分の１ないし４分の１にとどまつている。

佐藤首相訪沖についての治安情勢

（８月７日現在）

団体名	情　　勢
社大党	教育関係費を含めた財政援助が実現するであろうことは喜ぶべき事であるが，これによつて全住民の悲願である祖国復帰が，目隠しされる結果になることには反対である。したがつて，手放しの無条件歓迎ではなく，２０年間異民族に支配されている沖縄の実情を，十分みてもらい，祖国復帰問題等訴えるべき点を強く訴えたいとの態度である。行動面では，復帰協の方針にしたがつて行動する。 なお，８月１０日議員総会が開かれるが，上記態度が確認決定される見込みである。
社会党	日本の首相の訪沖は，アイゼンハワー米大統領訪沖の場合とは本質的に違うので阻止，反対はしない。しかしながら，首相の訪沖は，国会での社会党の突き上げで実現したものであり，又，施政権返還を目的としないので，施政権返還と軍事基地撤去問題を抗議する。行動面では，復帰協の方針に従がつて行動するが，党独自にポスターやチラシによつて党の態度を県民にアピールする。
人民党	７月１２日の党中央常任委員会で，佐藤首相の訪沖目的は， 米国の軍事基地強化と属領支配強化 のためであるので，訪沖に反対し，抗議の斗いを全県下でくりひろげよう。と声明し，その後２，３の集会を利用して同様趣旨の演説をし，党の態度を公表している。 しかしながら，そのための活動は殆んど行なわれず，低調である。 行動面では，復帰協の方針に従つて行動するが，社会党同様，ポスターやチラシ，機関紙によつて党の態度を県民にアピールする。 現在，復帰協執行委員会で，事務局作成の「佐藤首相訪沖関係訪問対策要綱」に，人民党は，７．１２声明（党常任委員）の趣旨を取り入れるよう主張しているが，党及び同調団体（民青）のみで，全く孤立し，最終的には党の主張は排斥される見込みである。
教職員会	教育関係費の援助を折衝中で，これが実現の見込みであり，又首相が訪沖して実情をみてもらいたいというのは，教職員会の前々からの要請でもあるので，今度の訪沖は反対ではないが，祖国復帰の意思表示は強く行なうとの態度である。 行動面では，復帰協の方針に従うが，当日は沿道で歓迎する生徒児童には，首相を迎えるのに国旗を掲げるのは自明の理であるので，日の丸の小旗を持たせる反面，復帰の意思を子供なりに表現したプラカードも持たせる。なおコザおよび北部の教職員会は歓迎の意

	向が強い。
復帰協	首相訪沖には反対しないとの基本方針を決定，確認した後 ８月７日の執行委員会では， １　敗後２０年も米国の支配下に放置した責任を追求し，抗議する。 ２　首相訪米の際に，沖縄返還問題で県民の切実な要求を裏切つたことに抗議する。 ３　県民の要求は単なる経済援助ではなく，即時復帰であるので，強く訴え，復帰スケジュールを明示するよう要求する。 ４　ベトナム紛争に，沖縄がまきこまれる不安を訴え，これの平和的解決を訴える。 との基本態度を盛込んだ「佐藤首相沖縄訪問対策要綱」を討議したが，人民党，民青が，人民党の主張（上記７．１２声明）を盛込むよう主張したため結論の出ないままに次回に持越している。 しかしながら，最終的には，人民党の主張は排斥され，事務局案の対策要綱が決定される見込みである。なお次回執行委員会は８月１０日の予定。 行動面としては，当日県民大会とデモをする事の大綱を決定しているのみで，具体的な点は，次回以降の執行委員会で決定され，まだ動員指令も出されていない。
学生団体	琉大学生会は，会長が鹿児島旅行中であり，又夏休みのために，組織的動きはない。又，沖大，国際大も組織だつた動きはない。 しかしながら，統一帰省活動実行委員会が人民党の影響下にあり，人民党と同様の態度で，独自の資金，宣伝活動を行ない，８月１５日那覇高校で，瀬長亀次郎等を講師とする講演会名目の集会を催す予定である。 具体的な行動計画はまだ決定されていないが，３大学の民青グループとともに最も注意を要するグループである。
その他	１　歓迎準備会 ８月７日，政府，民主党の提唱で，経済，教育，福祉，市町村会，報道関係代表２８名が出席して，首相歓迎準備会の打合せ会が行なわれたが， 多数意見は， 無条件歓迎ではなく，実情をよくみてもらつた上で，訴えるべき点は強く要請，請願をしたい。 そのために，「歓迎」の名称は，現状を肯定することになり，無条件歓迎となるので他の名称を使うべきである。 となり，組織の役員（正副会長）を決定した上で，

	8月13日，さらに拡大準備会を催すことになつた。 2　全琉小，中高校長協会。 8月7日協議会を催して， 首相の訪沖は，数年前からの要請であり，実情を直接見聞してもらい教育関係援助を訴えたい。 との基本線度で，当日は，児童，生徒，父兄を動員して，日の丸で鼓笛隊で歓迎することを決定している。
警備上の問題点	1　当日は，空港ロビーおよび沿道で，プラカードや横幕による復帰の意思表示や「沖縄を返せ」の合唱により気勢をあげる程度で，全般的には秩序ある行動がとられると思われるが， 復帰協の統制力にも限界があるので，統一帰省活動実行委員会を中心とする学生団体が混乱の発火点になることに警戒する必要がある。 2　当日宿舎まで請願デモを行ないデモ終了後，大会決議文の手交の際に，首相一行不在のため手交出来ない場合は，人民党に乗ぜられて混乱することが予想される。 なお復帰協執行部としては，復国復帰県民大会の決議文をデモ参加者の統制を保ち，人民党の騒動を封じるために，当日デモ終了後直ちに，首相又は代理者に手交して，解散させたい意向である。

外部前へ

北米局長
参事官
北米課長

政治情報（その6）40.8.23

1　県民大会の参加人員　約[illegible]人

2　デモへの参加人員
　那覇高校を出発のとき　約 5,200人

　このうち、国体別で確認されているものは次のとおり。

[redacted]

[redacted]

（いずれも警察局資料による。）

総理府